

弘法大師ゆかりの地参拝 5日間

真言密教の宗祖・弘法大師は遣唐使の留学僧として入唐し、現在の福建省・赤岸鎮に漂着し、長安(西安)にある青龍寺の恵果和尚に師事し、後に「遍照金剛」の灌頂名を与えられました。こちらのコースでは弘法大師の入唐の足跡を辿り、赤岸鎮、青龍寺、中国密教の祖庭・大興善寺といった弘法大師ゆかりの地を巡拝します。

1	各地空港 ⇒ 上海 ⇒ 福州 空路、上海で乗り継ぎ、福州へ	【福州泊】
2	福州 ⇒ 赤岸鎮 ⇒ 福州 朝、弘法大師入唐の地・赤岸鎮へ 午前、弘法大師ゆかりの地を参拝(空海記念堂、空海上陸記念碑) 福州へ戻ります	【福州泊】
3	福州 ⇒ 西安 午前、福州市内見学(開元寺、湧泉寺) 午後、空路、西安へ	【西安泊】
4	西安 ⇒ 上海 午前、西安郊外見学(兵馬俑、秦始皇帝陵、華清池) 午後、西安市内の弘法大師ゆかりの地を参拝 (青龍寺、恵果空海記念堂、大興善寺)	【西安泊】
5	上海 ⇒ 各地空港 午前、西安市内見学(大雁塔、小雁塔) 午後、空路、上海で乗り継ぎ、帰国の途へ 入国手続き、税関の後、解散	

赤岸鎮

804年、弘法大師は遣唐使の留学僧として唐に渡りました。5月12日に難波津を出航、博多を経由し、7月6日に肥前国松浦郡田浦から入唐の途につきました。弘法大師が乗船した船は途中で嵐に遭い、航路を逸れて8月10日に福建省の赤岸鎮に漂着しました。漂着後、海賊の嫌疑をかけられ、疑いが晴れるまで約50日間待機させられましたが、11月3日に長安入りを許され、12月23日に長安に入りました。



空海記念堂



赤岸鎮の浜

福州

福建省の省都である福州の歴史は古く、春秋時代には越の国に属していたとされています。五代十国時代には閩の国の都として繁栄し、明代には特に海外貿易が盛んになり、その規模は泉州をも凌ぐようになっていました。海外で暮らす華僑の多くは福建省出身者ですが、中でも福州出身は特に多いと言われています。
また、福州市内最古の仏教寺院である開元寺は空海、円珍なども訪れた古刹です。



開元寺



弘法大師像(開元寺)

西安

シルクロードの東の起点として繁栄した古都で、現在は陝西省の省都です。紀元前12世紀頃に西周が鎬京として都を設置以来約2,000年の間に秦や前漢、随、唐をはじめ、11の王朝の都となりました。紀元前202年に興った前漢の時代から西安は「長安」の名が使われるようになり、栄華を極めた唐代には西方の外国人で賑わう大都市へ発展しました。「西方を安ずる」という意味の西安の名は明代に付けられました。

弘法大師や円仁が留学した青龍寺、密教がインドから中国に伝わって以来、その一大拠点として繁栄した大興善寺といった真言密教に関わる寺院や、玄奘三蔵の訳経道場だった大雁塔や小雁塔、玄奘三蔵の墓塔がある興教寺、鳩摩羅什の訳経道場だった草堂寺など、仏教に深く関連した史跡が数多く遺っています。



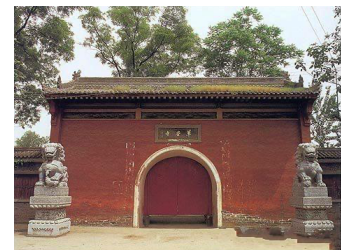
大雁塔



青龍寺



興教寺



草堂寺



小雁塔



大興善寺

西安には仏教史跡のみならず、兵馬俑坑や秦始皇陵、華清池、楊貴妃墓など世界的に有名な観光地が多くあります。



兵馬俑坑



秦始皇陵



華清池



楊貴妃墓